

この授業は終了しました

授業資料ナビゲータ(PathFinder)

教養コア科目 A (論理と哲学)

平成 23 年度(2011) 授業コード : G14A00107

哲学 7

木 4 望月 由紀 先生

キーワード： 正義 公法と私法 倫理 自己決定 啓蒙思想 カント

←実際に利用した資料にはチェックをしましょう。

図書 本には、テーマに関連する内容がまとめられています。授業のテーマをつかむにはまずはここから始めましょう。
★のついている図書は、授業期間中(4月~8月)は本館1階 授業資料ナビコーナーにあります。

- 『[永遠平和のために；啓蒙とは何か：他3編](#)』(光文社古典新訳文庫；[KB カ 1-1]) カント著 中山元訳 光文社 2006
→ 「啓蒙とは何か」は人間が啓蒙されるためには未成年の状態から自ら脱し、理性的判断が自立的にできなければならないと説く。また国家や社会という制度と個人との関係がどうあるべきかについて、公と私という観点から述べている。
★【本館閲覧室 4 階小型 134.2/EIE】
- 『[アンティゴネー](#)』(岩波文庫；赤-1105,5379,赤(32)-105-1) ソポクレス作 呉茂一訳 岩波書店 1961
→ 『アンティゴネー』はギリシャ悲劇の一つであるが、ヘーゲルなどの分析によって、国家の法と私的倫理が対立した結果生じる問題、という現代的意義を読み取ることができる。
★【本館閲覧室 4 階小型 99/S】
- 『[アンティゴネーの主張：問い直される親族関係](#)』ジュディス・バトラー著 竹村和子訳 青土社 2002
→ 兄の埋葬を巡るアンティゴネーの行動を近親相姦というタブーの視点から読み解きながら、女性が政治的に発言することの社会的意義について精神分析的に論じている。
★【本館閲覧室 3 階 367.1/ANT】
- 『[触発する言葉：言語・権力・行為体](#)』ジュディス・バトラー著 竹村和子訳 岩波書店 2004
→ 人間が発言(発話)することの意味を言葉の暴力性という観点から論じた序章「言葉で人を傷つけること」は、言葉の公的意味が個人の身体を傷つけることの問題点と可能性について論じている。
★【本館閲覧室 3 階 311.1/SHO】
- 『[読む哲学辞典](#)』(講談社現代新書；1839) 田島正樹著 講談社 2006
→ 哲学の基本的トピックについて時にエッセイ風に解説している。用語辞典ではないので、分からない単語は哲学事典などを片手に読み進めてもらいたい。
★【本館閲覧室 4 階小型 401/YOM】

My Book List & Keywords 自分で見つけた図書や、実際に使った検索キーワードなどをメモしましょう。

授業資料ナビゲータ(PathFinder)入口(<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/pathfinder/>)

本や論文を探す方法(<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/pathfinder/pfsearch.html>)

作成：千葉大学附属図書館 2011.4.1